

東 奥 日 報
2025年(令和7年)9月6日(土曜日) (21)

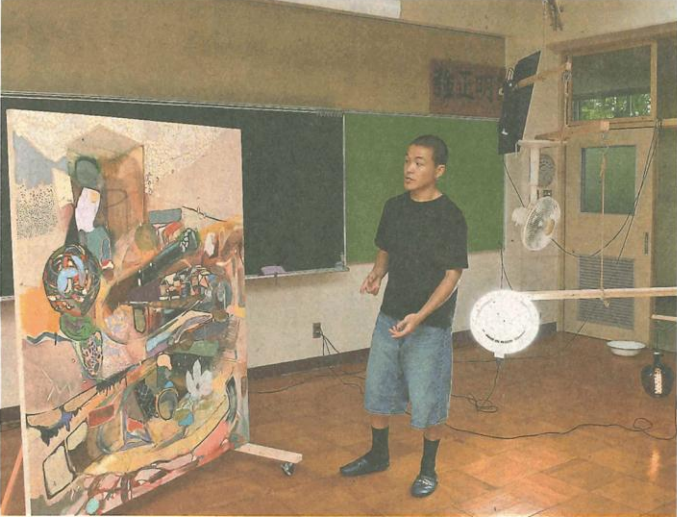
廃校舎で美術展 交流生む場に

新郷・西越 きょうから 八工大生ら9人出品

新郷村の西越地域振興会「さいごし笑楽亭」(谷地村久人会長)は6、28日、旧西越小学校で、廃校舎を活用し関係人口を増やすことを目的とした「シンゴウムリアートプロジェクト」を開き、八戸工業大学の学生や同村の中学生、大学生と親交のある作家ら9人の作品を紹介する。5日、会場で関係者向けの内覧会が開かれた。(中川博志)

プロジェクトは村地域おこし協力隊の清水香帆さん(23)と、八工大感性デザイン学部4年の小比類巻侑生さん(22)が企画した。教室だった部屋や階段を巡ると、感光剤を塗った布に村人の形を写した作品、村内で感じたことを話している音声など、さまざまな表現の作品に出合える。八工大の皆川俊平准教授(43)は、天井からつるした扇風機とライトで風と光を一枚の絵画に当て、刻々と変化する自然を表現した。展示は8人の10作品でスタート。会期中に3人が制作を進め、作品は約20点になる見込み。

展示全体のタイトルが「RPG(ロールプレイングゲーム)」。展示責任者で出品もする小比類巻さんは「伝説芸能発表も行う。開館は金・土・日曜と祝日の午前10時～午後6時まで、観覧は無料。15日は地区を巡る「ムラ歩き」最終日だ」と話した。



シンゴウムリアートプロジェクトを企画した一人で、展示構成について説明する八戸工業大4年の小比類巻さん



感光剤を塗った布に人の形を写した野々山裕樹さんの作品

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」